

子どもたちの夏 各地でさまざまな集い

下五島 小学生黙想会

7月22日

(月)、福江教会で下五島地区合同の小学生黙想会が行われた。

今年の11月にフランススコ教皇が来日される予定ということで、会のテーマは「キリストの平和」—教皇が伝える平和について」とし、オリエンティショーンと朝の祈りが終わると、福江教会主任司祭の中村満師から、教皇フランシスコについてのお話をあつた。教皇様の生い立ちの話を中心に、教育が伝わった。教皇様の生い立ちの話を中心に、教育



雲仙 召命フェスティバル

7月29日

(月)、雲仙メモリアルホールで長崎教区召命委員会(岡秋美委員長)主催の「第9回召命フェスティバル in 雲仙」が開催された。

長崎教区内の子どもたちをはじめ、主任司祭、シスター、カトリックスター、保護者も参加しました。大司教、中村倫明被選司教、各小教区の主任司祭の似顔絵を作成しておこなわれます。



みことばにふれて⑯

古里 慶史郎 神父
(フランススコ会、本原教会)



福音書の中に、ある安息日に手の萎えた人がいやされる物語が記されています(マルコ1・27)と驚く様子が書き記されていますが、この流れの一つのクリスマックスとして描かれるのがこの手の萎えた人のいやしのお話です。

私はこの物語が大好きで、よく黙想することにしています。

物語全体の印象は、ファリサイ派の人々が安息日にイエス様が律法違反を犯すかどうかを注視していく、その論争問答が大きくなっていますが、その陰にあつて、萎えた手をいやしていただいた人の影はとても薄いものです。長年イエス様は誰がこの場の主人公なのかをしか見られていません。そうしたファリサイ派の無視に対してもらった痕跡はなく、単なる論争の道具

としか見られていません。

イエス様は誰がこの場の主人公のかを伏していましたがいて、おそらく熱病(律

1・41)。あるいは4人の弟子たちの1人、ペトロにとっては熱病にかかり床に倒れていた姑がいて、おそらく熱病(律

1・41)。あるいは4人の弟子たちの1

人、ペトロにとっては熱病にかかり床に倒れていた姑がいて、おそらく熱病(律

1・41)。あるいは4人の弟子たちの1